

令和7年度 学校関係者評価

中津市立南部小学校

1 学校の教育目標

言葉によってつながり、自分たちで課題をとらえ解決していく児童の育成

2 育成を目指す資質・能力

言語能力・問題発見・解決能力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期に向けての取組
生きて働く知識・技能の習得	①単元テストの「知識・技能」で 1・2年生 70%以下の児童の割合を15%以下にする 3~6年生 60%以下の児童の割合を15%以下にする	学校	・確かな学びの定着を図る取り組みの実施 (読解力の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は、C層の困りを具体的に把握し、週2回、基礎力の習熟を図る問題に取り組ませる→ゆきちタイム ・担任は、毎日、慣用句（ことわざや四字熟語）の音読に取り組ませる→朝の時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちには、読み取る力を身につけてほしい ・4~6年生に算数プリントの宿題を多く出すといい ・集中して読書ができる子どもが減っている気がする ・個々のつまずきを把握し、計算力のスピード化を図る取り組みが必要 ・読解力の向上のために、家庭での音読の後に感想を聞いたりするといい
		家庭	・家庭での音読の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、音読を聞き、読み方について褒めたり、聞いた感想を話したりする。（親学のすすめアンケート） 	
		地域	・読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方は、朝の読み聞かせの活動に参加する。（「くすのき」） 	
未知の状況にも対応できる思考力・表現力等の育成力	③単元テストの「思考・判断・表現」で、60%以下の児童の割合を、国語10%以下、算数25%以下にする。 ④「友達の考え方や思いを聞き合う活動を通して、自分の考えがより深まった。」と答える児童の割合を80%以上にする	学校	・みんな活躍授業における意見交流の推進 (言語能力の向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者は様々な言葉わざを授業で提示する。 A (1週間で4回以上) B (1週間で3回) C (1週間で2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協働で学校教育目標に近づけていきたい ・すべての学習の基礎は読むことにあるので、学校だけでなく、家庭でも取り組むことが必要 ・言葉わざの授業はとてもよいと思う ・地域のサポーター授業参加はとてもありがたい ・中津地方の方言も指導してほしい ・昔からの「言い伝え」を学習してほしい ・地域の住人として、サポーター授業に参加していきたい ・家庭でも宿題の取り組みに参加していきたい ・宿題も保護者が子どもに寄り添い、質問内容を理解しているか確認する
		家庭	・家庭での音読の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、宿題の内容を確認し、宿題の取り組み方について子どもと話し合う。（親学のすすめアンケート） 	
		地域	・学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方は、年に1回は、すくすくプロジェクトのセンター授業に参加する。 	
学びを人生や社会に生かそうとする心性等の涵養	⑥「自分たちの学校生活目標を見直し、自分の言葉で振り返ることができた」と答える児童を80%以上にする ⑦「まわりの人にふわふわ言葉を使っている」と答える児童を80%以上にする	学校	・自ら気づき行動する力の育成 ・他者と適切につながる態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、児童に生活目標を月に1回振り返りをさせ、自分の言葉で振り返りをする時間を設定する ・担任は、週に1回、学級活動や道徳の時間に、ふわふわ言葉に重点をおいた学習活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に、安全パトロールの呼びかけを積極的に行いたい ・ゲームや学習の時間を自分で意識ができることが肝要 ・学校と地域がとてもよく連携できている ・南部小の子どもたちは、とても友好的で、よく挨拶をしてくれる ・スマホ対策を家庭と学校にする必要がある ・地域ぐるみで子どもを育てる土壌ができている ・南部小を取り巻く環境は理想的だと思う
		家庭	・子どもが自ら健康的な生活を送ろうとする意識を育てる活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、起きる時間と寝る時間を子どもと話し合い、子どもが決めたことを実行できるようにする。（親学のすすめアンケート） 	
		地域	見守り運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方は、登下校時、休日など児童へ声かけ・あいさつをする。 ・地域の方は、総合的な学習の一環として子どもとふれあい、地域についての学習に協力する。 	
働き方改革の推進	⑧月あたりの超過勤務時間の平均12時間にする	学校	・業務の役割分担の適正化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全委員会で、在校等時間増の職員の把握を行い、月1回、業務の見直しと削減をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でできることを遠慮なく相談してほしい ・通知表を年2回にすると、抜本的な見直しが必要
		家庭	・「働き方改革」の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁日、学期末の成績処理時間等、働き方改革についてPTAにて保護者の理解を図る 	
		地域	・「働き方改革」の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁日、学期末の成績処理時間等、働き方改革についてCSにて地域の理解を図る 	